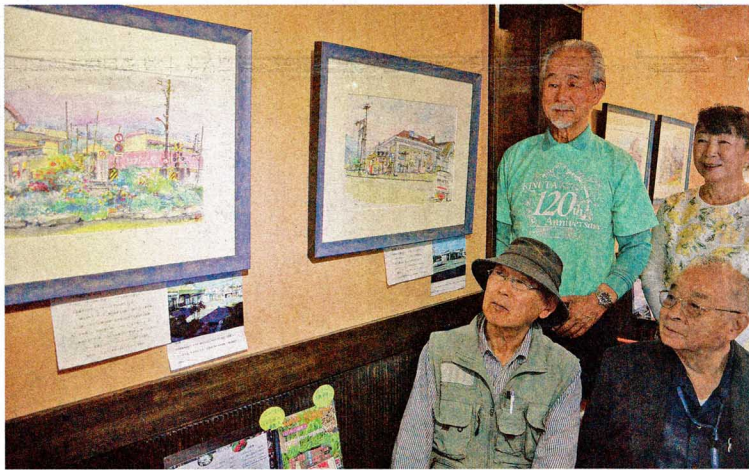


# 小田急沿線の魅力を伝える

## あすまで 重茂佳伸さんの「スケッチ展そのV」



「石桜モンパルナス」のメンバーらと作品に目をやる重茂佳伸さん（後列左）

「新松田駅」（03年10月3日、JR御殿場線への連絡口）は、駅近くの喫茶店主の好意で窓辺からの風景をスケッチしたという一枚。清楚（せいそ）な雰囲気白いヒガンバナ、今は取り外された「ロマンス通り商店街」の看板が駅前のにぎわいを伝える。

作品はボールペンと水彩で描かれ、「時間がたつと光の差し方が変わり建物の見え方も違ってくるので、あまり時間をかけすぎないように」と、2時間を超えないように仕上げたという。

水が富んでいることから名付けられたという「富水駅、箱根観光の拠点である「小田原駅」なども展示され、旅心も味わうことがで

きる。重茂さんは、岩手高OB有志による美術グループ「石桜モンパルナス」のメンバー。本展の展示も先輩後輩が手伝い、同窓生が鑑賞に来るなど交流の場にもなっている。

午前11時から午後6時しるまで。

盛岡市長田町の重茂をスケッチした作品の佳伸さん（88）の「小田急沿線スケッチ展そのV」は、同市本町通の1の8の10の喫茶ママで開かれている。東京で教員生活を送った重茂さんが、小田急沿線美術学科を卒業後、都

内の中学の美術講師を経て、世田谷区立の小学校の図工科教員を務めた。2003年に退職して帰郷するのを前に、親しんだ小田急沿線の風景をスケッチし

展示されたのは、02年3月に制作した本厚木駅・小田原駅のスケッチで、友人の二木康夫さん（東京都）が撮影した現在の各駅周辺の写真も併せて展示し

た。

た。